

糖尿病のすべてを診る糖尿病センター

多診療科連携による糖尿病診療



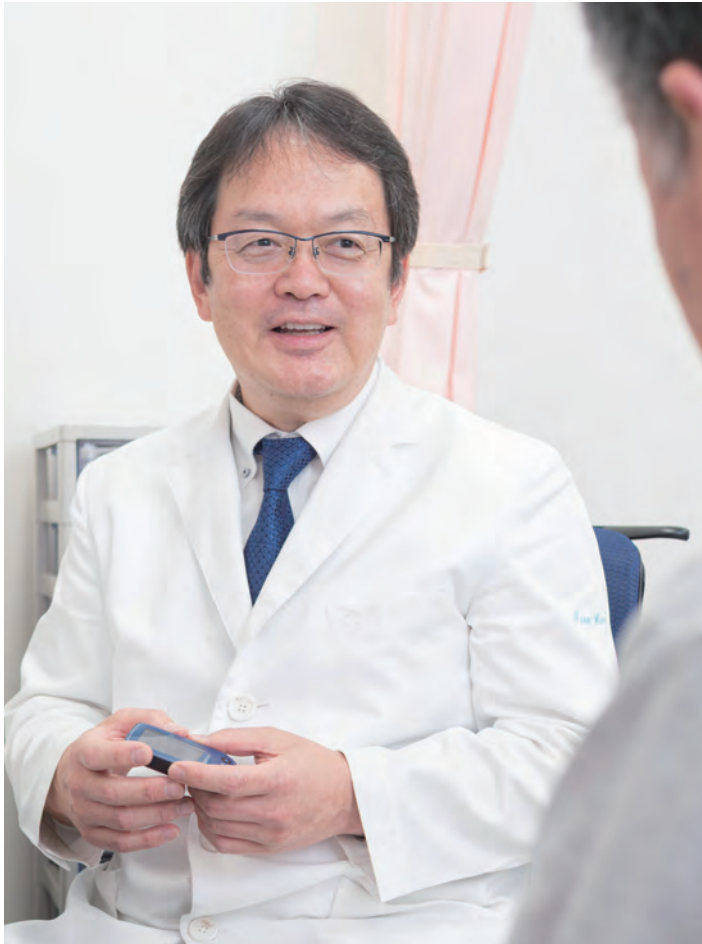
糖尿病治療の目標は、血糖値を下げるだけでなく、適切な治療と管理を通じて、健康寿命とQOL(生活の質)を保つことです。そのため、血糖だけでなく、血圧や脂質、体重なども含めて全身を総合的に管理し、合併症の発症や進行を防ぐことが重要です。糖尿病は全身に影響を及ぼす病気であり、眼や腎臓、心臓、血管、足などさまざまな臓器に障害を引き起こします。当センターは、糖尿病診療に関わる診療科や部署が連携し、多職種からなるチーム医療によって、血糖コントロール困難例から合併症・併存症まで幅広く診療しております。また、1型糖尿病や糖尿病合併妊娠、周術期の血糖管理など、専門的な管理が必要な症例の診療にも力を入れております。糖尿病治療の基本である食事療法や運動療法に加え、持続グルコースモニター（CGM）やAID療法などの先進的な医療機器も活用しながら、高度な糖尿病医療の提供に努めております。当院は特定機能病院として、重症例や複数の合併症を有する症例を受け入れる役割も担っております。講演会の開催や情報発信、医療従事者への教育活動などを通じて糖尿病診療の向上に努めると共に、地域の先生方との“顔の見える連携”を大切にしながら、糖尿病に関わるあらゆる課題に責任を持って対応してまいります。

持続グルコースモニター（CGM）



パッチを装着してモニターで血糖値を管理

血糖値を24時間連続で確認できる、持続グルコースモニター（CGM）。低血糖や高血糖を事前に知らせ、血糖値の変動を見える化することで、糖尿病の治療だけでなく、生活習慣の見直しや糖尿病合併症の予防にも役立つ可能性があります。



内分泌代謝内科 教授
糖尿病センター長

薄井 勲
ISAO USUI

休日は家庭菜園や大相撲を楽しんでいます。リフレッシュした気持ちで診療に向き合い、多職種・多診療科が連携するチーム医療を通じて、地域の皆さまの健康を支えていきたいと考えております。



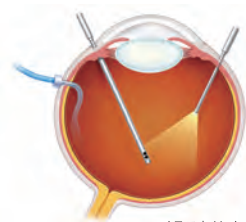
最新の糖尿病網膜症治療

早期発見と視力維持を目指して



糖尿病網膜症は、糖尿病の三大合併症の一つで、網膜の細い血管が高血糖の影響を受けることで発症します。見え方に異常がないまま病気が進行することもあるため、自覚症状だけでは気づきにくい病気です。病状が進行すると視力低下や硝子体出血、網膜剥離を引き起こし、失明に至ることもあります。視力を守るためには、定期的な眼科検査が大切です。糖尿病と診断された方には、年に一度は眼底検査を受け、網膜症の有無を確認していただきたいと考えております。早期発見につながれば、適切な時期に治療を開始することができます。当院では、視力検査や眼底検査、OCT（光干渉断層計）などを用いて網膜の状態を評価しております。また、糖尿病センターと連携し、レーザー治療や抗VEGF薬による硝子体注射、硝子体出血や牽引性網膜剥離など重症例に対する硝子体手術まで行っております。病状を的確に見極め、患者さんごとの病態に応じた治療方針を検討しております。近年は手術機器や技術の進歩により“失明を防ぐ”だけでなく、“良好な視力を維持する”ことも目指せるようになってまいりました。当院では術中OCTなどの先進的な医療機器を活用しながら、手術中の網膜の状態を詳細に確認し、より精密で安全性に配慮した治療が可能です。糖尿病網膜症の診療においてお困りの際は、どうぞ私たちにおまかせください。

硝子体手術



イラストはイメージです

レーザーで対応困難な硝子体出血や増殖膜・網膜剥離に行われる硝子体手術。眼球に小さな穴を開けて器具を挿入し、眼内の出血や増殖膜を除去し、剥がれた網膜を再度接着させ、視力の回復や視機能の維持を図ります。

糖尿病性腎症の最新治療

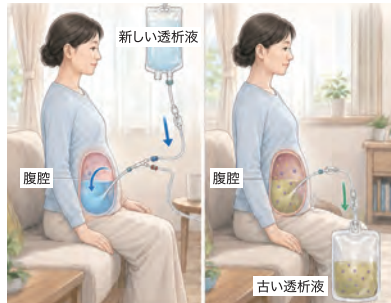
腎臓を守る薬物療法と腎代替療法



糖尿病性腎症は、糖尿病によって腎臓の働きが徐々に低下していく病気です。腎臓を守る第一歩は、尿検査と血液検査の両方を確認することです。腎臓の働きを示すeGFRや、腎障害の早期サインとなる尿アルブミンを定期的に確認し、腎機能の変化を早期に把握することが大切です。近年は、血糖や血圧を管理するだけでなく、RAAS阻害薬（ACE阻害薬・ARB）やSGLT2阻害薬など、腎臓や心臓を守る薬の投与を早い段階から行うようになっております。一方で、腎機能が大きく低下した場合には、「腎代替療法」と呼ばれる治療が必要になります。主な選択肢には、機械で血液を浄化する血液透析、ご自身の腹膜を利用して在宅で行える腹膜透析、腎機能回復が期待できる腎移植があります。それぞれに特徴があるため、患者さんの生活スタイルに合わせて治療法を選択します。当院では、透析導入の判断から透析方法の選択、合併症管理、腎移植の相談まで一貫して対応しております。糖尿病性腎症は、早く見つけて適切な治療につなげることが重要です。一人で抱え込まず、私たちと一緒に治療を進めていきましょう。

腹膜透析とは

腹膜透析は、お腹の中に透析液を入れ、腹膜をフィルターとして老廃物や余分な水分を取り除く在宅治療です。毎日の治療と感染予防のための注意は必要ですが、通院回数が比較的少なく、自宅で行えるため、生活や仕事と両立しやすい治療法です。



注 入	排 液
新しい透析液を腹腔に注入	古い透析液を排出



腎臓・高血圧内科 教授

頼 建 光
TATEMITSU RAI

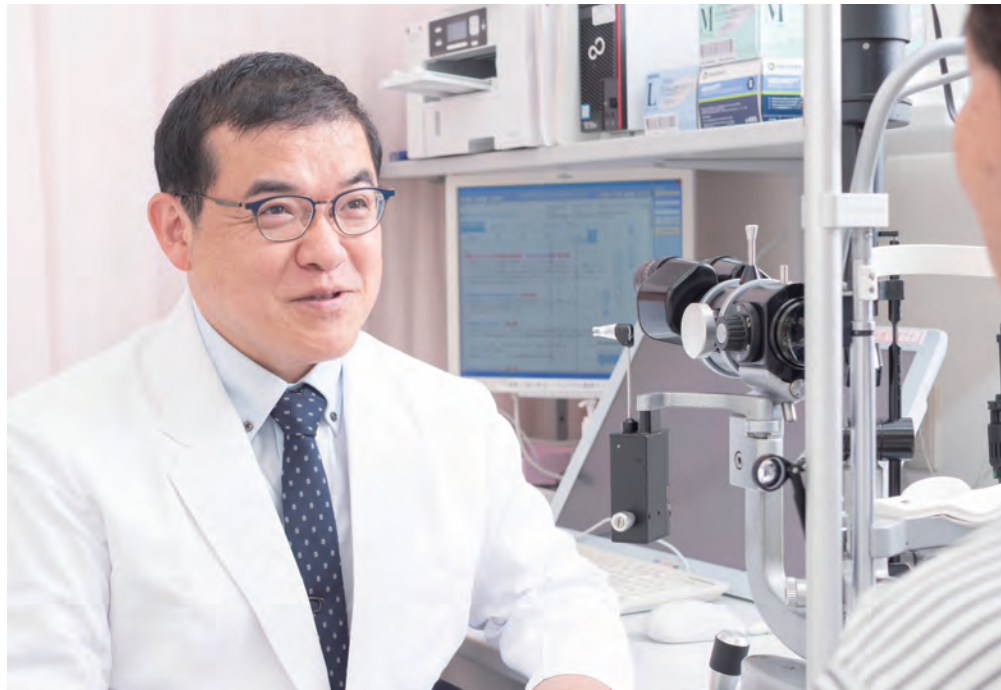
音楽を家族で楽しむひときは、私にとってかけがえのない時間です。診療においても、患者さん一人ひとりの生活やご家族とのつながりを大切にしております。患者さんを支えるため、地域の先生方と連携しながら、安心して治療が続けられる診療体制づくりを目指しております。



眼科 教授

西 塚 弘 一
KOICHI NISHITSUKA

休日は旅行や温泉巡り、町中華の食べ歩きを楽しんでいます。栃木に来てまだ間もないですが、多くの方との出会いに恵まれ、人の温かさや暮らしやすさに魅力を感じています。これからも地域の皆さまとのつながりを大切にしながら、栃木の医療に貢献していきたいと思っております。



血管内治療

糖尿病による血管障害を見逃さない

糖尿病患者さんは動脈硬化が進行しやすく、冠動脈疾患や下肢虚血などの心血管疾患を高頻度に合併します。特に下肢虚血では足への血流が不足し、傷が治りにくなるほか、重症化すると下肢切断に至る場合もあります。こうした血管障害は、自覚症状が乏しいことも少なくありません。胸部症状や歩行時の足の痛み、治りにくい足の傷などの小さなサインを見逃さず、早期に対応することが重要です。当科では、虚血の精査を行った上で、PCIやEVTを中心とした低侵襲の血管内治療を実施しております。カテーテルを用いて心臓や足の血管にアプローチし、血流の改善を図ることで、患者さんのQOL(生活の質)の維持や下肢切断の予防につながっております。血管内治療のみでは対応が難しい末梢虚血に対しては、脂肪由来幹細胞を用いた再生医療も実施しております。患者さん自身の細胞を活用し“新しい血管を作る力(血管新生)”によって血流改善を図る治療で、傷の治癒や救済を目指しております。患者さんや地域の先生方におかれましては、日常の小さな変化を見逃さず、早い段階で当院へご紹介いただければと思っております。



心臓・血管内科／循環器内科 教授
佐久間 理 吏
MASASHI SAKUMA

日頃から新しい知識にふれることを心がけ、主催する「栃木下肢救済ネットワーク」では、情報共有や症例検討に取り組んでおります。そこで得られた知見を日々の診療に活かし、患者さんへ還元してまいります。

糖尿病足病変

創傷治療と多診療科連携による早期介入

糖尿病足病変は、糖尿病を背景として生じる足の傷や潰瘍の総称で、神経障害、血流障害、感染など複数の要因が関与します。特に糖尿病性神経障害が進行すると、痛みを感じにくくなるため、傷ができて気づかないまま悪化するケースがあります。運動神経障害による足変形や、自律神経障害による皮膚乾燥も、潰瘍形成の一因となります。また、高血糖下では免疫機能が低下しやすく、小さな傷から感染を起こすこともあります。感染のコントロールが困難になると、下肢切断に至る場合もあるため、創傷の早期発見と適切な治療介入が求められます。当科では、原因を適切に評価した上で、創傷管理や感染コントロール、創傷の負担を軽減する免荷療法などを行っております。さらに、多診療科で連携しながら、合併症の評価や専門的な創傷治療に取り組んでおります。患者さんが日頃から足を観察する習慣を持ち、違和感を覚えた段階で早めに受診いただくことが、重症化予防と早期治療につながります。地域の先生方も、遠慮なくご相談いただければ幸いです。



形成外科・美容外科 准教授
梅 川 浩 平
KOHEI UMEKAWA

愛猫の肉球を見て、ふれて健康をチェックするように、糖尿病の足病変も毎日の観察が大切です。ご自身の足を見て、ふれて、小さな変化に早く気づくことが足を守る第一歩となります。日常生活で目が行きにくい足元にも、ぜひ目を向けてみてください。



〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小井880
TEL:0282-86-1111(代表)

糖尿病センター TEL:0282-87-2196

内分泌代謝内科 TEL:0282-87-2196

腎臓・高血圧内科 TEL:0282-87-2195

眼 科 TEL:0282-87-2209

心臓・血管内科／循環器内科 TEL:0282-87-2191

形成外科・美容外科 TEL:0282-87-2488



DOKKYO MEDICAL SCOPE 獨協の今を識る vol.12 2026年7月発行 発行元 獨協医科大学病院 地域連携・患者サポートセンター TEL:0282-87-2383

※QRコードを読み取ると、診療に関する解説動画(YouTube)をご視聴いただけます。または、「DOKKYO MEDICAL SCOPE —獨協の今を識る—」で検索してください。

DOKKYO MEDICAL SCOPE

— 獨協の今を識る — vol.12



合併症を防ぎ
毎日の安心につなげる
糖尿病診療



地域医療と高度専門医療を担う獨協医科大学病院糖尿病センター